

## 令和３年度第４回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和４年３月３０日（水） 午後１時３０分～午後３時３０分

■開催場所：職員会館かもがわ３階 第１・第２多目的室

■議題：

- （１）「市民参加推進力」指標検討部会からの報告
- （２）市民参加の裾野拡大検討部会からの報告

■報告事項：

- （１）令和３年度第２回市民公募委員サロンの開催結果について
- （２）新たに設置された附属機関等に係る協議結果及び市民参加に関係する新しい事業等

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員 11 名

（荒木委員，安委員，乾委員，内田委員，木村委員，嶋倉委員，菅谷委員，並木委員，長谷川委員，森川委員，森実委員，）

■傍聴者：なし

■特記事項：

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。  
Zoom を用いた Web 会議と併用開催した。

【議事内容】

### 1 開 会

### 2 座長挨拶

（内田座長から一言あいさつ）

（議題の説明，資料確認，時間配分について説明）

### 3 議題

#### 議題（１）「市民参加推進力」指標検討部会からの報告

<内田座長>

それでは，早速議題に移る。「市民参加推進力」指標検討部会では，一定，部会としての意見をまとめていただいた。事務局から資料に基づいて報告をお願いする。

<事務局>

(資料1「市民参加推進力」指標について)説明)

<乾指標検討部会長>

- ・ 市民参加推進計画を立てたからには市民参加の取組について、どのような状態であるかを測らなければならない。健康診断みたいなもので、測って初めて状態が分かる。精神論的ではなく客観的に確認していく必要がある。そのための指標を作ってはどうか、ということになった。
- ・ 測るための指標を作って、投入する資源に対してどういった成果・結果が出たかを確認する。
- ・ 指標名のネーミングは難しい。どんな文脈を踏まえて名前をつけるかが難しい。部会で審議した結果、一定の方向性が見えるところまで議論ができた。

<内田座長>

- ・ 論点のうち1つ目、2つ目を議論したい。
- ・ 市民参加推進力の定義が示されており、この定義に基づいて計画の進捗を測っていくとなっている。

<森実委員>

- ・ 「まちの課題共感力」で測る対象であるが、市民との情報共有が大切であり、情報発信がきっちりされ、十分な情報量が届いていることが重要である。
- ・ 実際は、自治体そのものの情報公開が不十分であり、情報公開が進む状態をどうやって確保していくか、情報公開と市民の理解度とを一緒に測れることが大切である。この指標の評価対象範囲はどうだろうか。

<乾指標検討部会長>

- ・ お医者さんは、不健康な人に運動を勧めるが、運動ができてなかった場合、本人のせいなのか、医者の言い方がまずいのか、原因は双方のいずれにもありうる。原因を探ることができないとダメで、市民参加も個人が悪いのではなく、行政側の支援が悪い場合もある。今回の場合は、どの施策が足りないか、振り返って探るものである。行政側の取組も含めて、すべてのステークホルダー、地域の中にいる人たちが対象である。

<森実委員>

- ・ 評価に関して、総合的な評価や個別の評価があるが個別の取組についても評価が重要だ。保育料の変更の関係で市民向けの説明会をやっていない。財政改革計画のパブリックコメントで保育に関して500件の意見があったにも関わらず、情報が発信されていない。公募委員が増えたことは良いと思うが、全部を一緒にして市民参加を評価することが良いのかどうか。特定の分野についても分けて多角的に議論できればと考える。

<乾指標検討部会長>

- ・ 指標で測るためいくつかピックアップはすることにはなるかと思う。健康診断でどこを見るか、そこは今後議論していくこととなる。
- ・ 指標自体がまだ完成ではない。次年度以降も議論していく必要がある。
- ・ 評価を実施する際、お手盛りになってはダメでちゃんと評価がされるような仕組みをつくる。

<菅谷委員>

- ・ 私自身が地域の中で活動しており、多くの行政の方々とお付き合いしている。行政がどのように事業を推し進めるか、成果の把握が非常に難しい。1つモデルを作って進めてみて、行政側としてどのように取り込んでやっていくか。みどり政策、健康長寿、まち再生など、関わる部署も多く、どこと一緒にやるかも検討が必要である。

<乾指標検討部会長>

- ・ これまでやってなかったことである。どのような活動がどう成果に結びついたかをきちんと見なければならない。やった結果を確認しないと振り返りにならない。活動をしてどういったアウトカムが出たかを確認して、ここをこうしよう、そこをこうしようという改善につながる。
- ・ 大学に関することだが、学生に授業のアンケートをとっている。授業を評価されることについて、最初は教員にアレルギーがあった。今ではやっていくことで当たり前になって、改善につながっている。

<並木委員>

- ・ 18ページ目の活用方法のところに掲載されている。①は市民参加計画の評価で、②と③はまちづくり活動自体を評価する。③で六原の取組がなぜうまくいったかなどを分析すれば、他の参考にできるのでは。地域の活動で何をすれば良くなるかが分かる。色々な評価事例を積み重ねていく必要がある。
- ・ 現時点では、この指標を用いてどう使うかがイメージできないと思う。今後の審議でそれを分かるようにしていく必要がある。

<乾指標検討部会長>

- ・ 検証をどこまでやるかもあるが、検証への関心も高めてほしい。政策効果が印象論で決まるところがある。

<内田座長>

- ・ 3つ目の論点について、3つの重視する視点の視点1「まちの課題共感力」の名称についてはどうするか。共感をどうとらえるかがポイントになる。

<森川裾野拡大検討部会長>

- ・ 前回の録画と資料を確認させていただいた。指標をそもそもつくる契機となったのは、第3期市民参加計画をつくる際、数値指標が必要となったが、とってつけたような指標になった。積み残し感があったからである。
- ・ 京都市は市民参加の分野で先進自治体だが、取組の客観視は必要である。評価の対象を3つの重視する視点と13施策となっているが、それだけでよいかの確認は必要である。
- ・ 重視する視点と施策の対応関係を1対1で整理されているが、実際は一つの施策が複数の重視する視点に対応するなど、重なり合う関係にあると考える。
- ・ まちの課題共感力では、職員と市民の対話が大切で、生産的な対話を通してお互いを知る、深く知る学びが大切である。重視する視点1の表題に学びや信頼とあるが、信頼がどうなっているかだとソーシャルキャピタルを測ることとなる。キーワードに対話が出ているが、共感とか共有とかは概念的な言葉である。

<乾指標検討部会長>

- ・ 計画そのものを測るのはそのとおりである。今までは計画は策定するが十分な効果検証の設計まではしてこなかったのではなか。どのようなアンケートを取って、どう評価するかなどを考えていく必要がある。
- ・ 3つの重視する視点は13の施策に横串を刺している。実際は一つの重視する視点のみに対応するのではなく一つの施策が複数の重視する視点に対応するが、全体の構造を分かりやすく図示するために単純化が必要である。個々の要素を抽出してグルーピングする必要がある。
- ・ タイトルはどうか。価値観までは測れない。関係者同士のつながりが重要なので「共感」がついている。何に対してというところで「課題」がついている。

<荒木委員>

- ・ 前回部会で問題提起をしたが、提案した名称に強いこだわりはない。1つのアイデアとして共有させていただいた。3つの指標のうち「課題」が2つについており、目的志向が強くなっている。NPOの代表をしているが、課題がはっきりしていてそれを解決するNPOと、今より良い社会を作る、価値を創造するNPOとがある。対話や共感が重要である。

<嶋倉委員>

- ・ 共感の主観的な言葉である。育成とか課題解決は客観的である。何を評価するかというところであいまいになる。指標を数値化する際に参考にする水準の設定はどうするのか。他の市と比較するのか。

<乾指標検討部会長>

- ・ 指標の数値は既存のものがあればそれを参考する。
- ・ うまく行っているところを評価してみて、それを分析したものと自分のところと比べてみて、差があるようなら、なぜかを考えることもできるだろう。

<並木委員>

- ・ 嶋倉委員の意見はまさにその通りである。インパクト評価、ロジックモデルを活用して評価をする際、アウトプットの数字はある。市民意見の聴取機会の回数、研修は何回開催されたなどがそれであるが、それ以降のアウトカム部分は、既存のアンケートだけだと埋められないかもしれない。追加で調査する必要がある。
- ・ 他との比較について、去年と比べる、すでにやっているところと比較するなどがある。来年度以降、ここを議論できると良い。
- ・ 名称については共感だけだと何を測るか分からないのはその通りである。言葉をつけ加える必要がある。市民参加推進計画に対話の定義がされている。このあたりは重要と考える。

<内田座長>

- ・ 「課題」だけではない、共感だと指標になりにくいのはそのとおり。アイデアを出してほしい。

<菅谷委員>

- ・ 前回の議論を動画で見させていただいたが、育成力についてあまり議論をされてなかったと思う。すそ野拡大のポイントになるところでもあるが、この名称だと、そののねらいが見えない。育成だけでなく、次世代につながるように広げるという意味で、ここも「発展的」とかの言葉にするのはどうか。

<並木委員>

- ・ 私自身が検討する過程で主体育成力としていたが、主体とは何だという疑問が出てきた。育成だけでは足りないとするし、新しい視点を加えて議論をお願いしたい。

## 議題（2）市民参加の裾野拡大検討部会からの報告

<内田座長>

事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料２「市民参加の裾野拡大検討部会資料」説明）

<森川裾野拡大検討部会長>

- ・ 今年度、市立高校へのヒアリングや教育委員会へのヒアリングで、少しずつ繋がりができてきたところである。高校の授業案など、相手があることなので、高校の教員の負担にならないように進めていくことができるように、次年度以降はより具体的に高校の教員のニーズ等を聞きながら進めていきたい。

<荒木委員>

- ・ 高校の公共の授業に注目して議論してきたことは面白い取組だと思う。高校の授業は、３コマ版だけでは高校側の取り組むハードルが高いため、１コマのライト版も必要だと考える。地域で活発に活動されている自治会長さんや NPO の方にもゲストスピーカーとしてご協力いただき、モデル授業等を実施できれば良いのではないかな。

<森実委員>

- ・ ４月から成人年齢が１８歳に引き下げられ、現場の先生方も主権者教育の進め方等も含めて、ちょうど危機感が高まっているのではないかな。
- ・ 市政情報のリストは、高校生だけではなく一般の方も含めて見るができるように、早速ホームページに掲載した方が良いと思う。

<乾指標検討部会長>

- ・ 市政参加とまちづくり活動では、高校生の活動への入り方が違うと思うが、部会でその面は議論されたのか。

<森川裾野拡大検討部会長>

- ・ 部会で議論した結果、市政参加とまちづくり活動は市民参加推進計画の両輪とされており、高校生の入口としてはどちらからでも良いのではないかという結論になっている。

<乾指標検討部会長>

- ・ 高校には、教科、特別活動（ホームルーム・生徒会活動・ボランティアなど）、その間の総合的な探究の学習の3種類がある。教科には専門の教員がおり、特別活動は担任の教員が担当する。総合的な探究の学習は専門の教員がいないため、どの枠組みで取り組むかによって担当の教員や窓口が変わってくる。従来の教科に加えて、新しい学習指導要領に対応するため、現場は大変な状況である。そこを理解した上で進めていく必要がある。
- ・ 市立高校だけではなく、府立高校や私立高校も様々な取組を実施されているため、他の高校の取組も見ると良いのではないか。

<森川裾野拡大検討部会長>

- ・ 「公共」は主権者教育（市政参加）、「総合的な探究の学習」はまちづくり活動の入口が親和性が高いということか。

<乾指標検討部会長>

- ・ 「特別活動」はまちづくり活動と親和性が高く、「総合的な探究の学習」は、両方のテーマで扱える可能性がある。探究学習では、テーマを生徒に自由に選ばせる高校もあれば、決められたテーマから選ばせる高校もあり、学校によって異なる。
- ・ 最近はSDGsのテーマが扱われることが多いが、より地域の中での課題を扱ってもらうように高校側に働きかけることはできるかもしれない。
- ・ 「総合的な探究の学習」は授業のフォーマットがだいぶできてきたように感じている。

<内田座長>

- ・ この取組は、広がりも深さもかなり幅広い取組となりそうである。どこから取り掛かるかも大事である。

<乾指標検討部会長>

- ・ 組織的に連携して実施するには、公共の先生方の研究会があるため、そこにお声掛けすれば良いと思う。

<森実委員>

- ・ 市民参加推進フォーラムが実施主体となるのか、授業モデルをフォーラムが広めていくのか、フォーラムとしての関わり方も今後議論していく必要がある。

<事務局>

- ・ 指標部会はまだまだ議論が抽象的な状態である。2つ目の裾野拡大部会での議論の高校連携授業を具体的に指標にあてはめ、実際にロジックモデルを組んで来年度進めても良いのではないかな。

<乾指標検討部会長>

- ・ 裾野拡大の取組をどこまで進めるのか、ロードマップの作成も必要である。来年度、部会で議論してはどうか。

<森川裾野拡大検討部会長>

- ・ 来年度、モデル授業をやってみようという認識は全会一致かと思う。これが本当に実施可能かという部分が見通しきれていないため、R4年度の初回のフォーラムで進め方を含め、検討したい。

<乾指標検討部会長>

- ・ 高校の授業スケジュールは、前年の秋にはすべて決まっている状態である。教育委員会のスケジュール感を理解した上で、R4年度の秋頃までに高校との連携授業の方針が固まっていることが理想だと思う。

<荒木委員>

- ・ 確かに、上から降りてくるような授業については、前年の秋にスケジュールが決まっているが、有志の教員が自主的に授業内容を検討している授業については、年度途中でもある程度融通が利く。面白い授業案であれば、モデル授業として連携してもらえる可能性がある。

## 4 報告事項

### 報告事項（１）

<事務局>

（資料３「令和３年度第２回市民公募委員サロンだより」報告）

<安委員>

- ・ 今年度１回目は完全にオンラインで、２回目はハイブリッド形式での実施であったが、ハイブリッド形式は難しいと感じた。今後、コロナの状況にもよるが、より多くの市民公募委員と交流できるように対面で実施できると良いと思う。

### 報告事項（２）

<事務局>

（資料４「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（一覧）」、資料５「市民参加に係る新しい事業や取組」報告）

<内田座長>

- ・ 事務局から他に報告等はあるか。

<事務局>

（参考資料４を用いて、令和４年４月１日から委嘱する２名の市民公募委員の選任について報告。）

<内田座長>

- ・ 一時的に、委員の女性比率が３５％を割り込むが、次回の改選では改善するように意識してもらいたい。

<内田座長>

- ・ 本日の議論は以上となる。今回から新規でご出席いただいている長谷川委員に感想など一言いただきたい。

<長谷川委員>

- ・ 建設的な議論がされており、大変勉強になった。京都青年会議所でも中高生、大学生を含めて議論をする機会が増えていくと思われるので、市民参加推進フォーラムの中でも様々な形で若い世代の市民参加に携わっていきたいと思う。

<内田座長>

- ・ 最後に、本日で任期が終了となる委員から一言ずついただきたい。

<木村委員>

- ・ 2年間お世話になりました。第3期市民参加推進計画を策定することに関わることができて良かった。これからは市民の中の1人として、市政に関わっていきたい。

<嶋倉委員>

- ・ 市民参加推進フォーラムに参加することで、議論に疑問を持ったり、それが本当に正しいのかを自分で考えるきっかけになった。

<内田座長>

- ・ 2年任期を3回で合計6年間、市民参加推進フォーラムに関わらせていただいた。この2年は座長として、コロナで活動が難しい中、委員の皆さんにも助けられた。R4年度以降も市民参加の推進に向けて議論を進めていただきたいと思う。6年間お世話になりました。

## 5 閉会

<事務局>

- ・ 任期満了を迎える3名の委員の皆様、大変お世話になりました。事務局側も人事異動・退職等がある。お世話になりありがとうございました。

以上